歌舞伎の魅力
― 河竹黙阿弥の世界 ―

講　　師＝佐藤かつら（本学文学部准教授）
時　　間＝10:45 ～ 12:15
受講定員＝40 人
受 講 料＝7,500 円

テキスト：プリントを配付します。

スケジュール

① 10月 2日（金）「河内山」と「直侍」①
② 10月16日（金）「河内山」と「直侍」②
③ 10月30日（金）「河内山」と「直侍」③
④ 11月13日（金）「三人吉三」①
⑤ 11月27日（金）「三人吉三」②
⑥ 12月11日（金）「三人吉三」③

講 座 内 容

「知らざァ言ってきかせやしょう」（「白浪五人男」）、「月もおぼろに白魚の」（「三人吉三」）などの名ぜりふでおなじみの、河竹黙阿弥の歌舞伎。河竹黙阿弥（1816-93）は、幕末から明治にかけて第一人者として活躍した歌舞伎作者で、坪内逍遙には「江戸演劇の大問屋」と称えられました。黙阿弥の作品は現代においても繰り返し上演され、重要なレパートリーとなっています。

この講座では、いくつかの黙阿弥の作品を取り上げて読み、その魅力を探ります。第２クールでは「河内山」と「直侍」、「三人吉三」を扱います。今回よりご参加になる方にもおわかりいただけるよう解説いたします。ご一緒に黙阿弥の世界を楽しみましょう。

講師プロフィール

東京大学大学院博士課程単位修得退学。博士（文学）。専門は近世演劇（特に幕末明治期の歌舞伎）。歌舞伎学会会員。